

子供にも家族運営に参加させる。

まだ1人で買い物ができないくらい幼いころは、家のことを親が全部してくれました。

子供は、何もしなくてよかった。

たとえば食事です。

朝になれば、テーブルには朝食が並べられ、夕方には夕食が並べられました。

別に何の苦労もありません。

全部親がしてくれていたのだから「全部親がやってくれるもの」「食事はテーブルに並べられるもの」という甘えた意識があります。



しかし、そうではない。

家庭での食事は、当たり前に出るものではありません。

それまでには、努力・苦労・時間など「プロセス」があります。

父が会社で働いて、お金を稼ぐ。

母はそのお金で、買い物をする。

買い物で買ってきた食材を使い、栄養のバランスがよくなるように知恵を振り絞りながら、一生懸命に料理を作る。

子供たちは食事をする事ができています。

影で見えない努力をしている親がいます。

かわいい子供だからいつまでも甘やかしたいところですが、よくありません。

子供が本当にかわいいなら、そろそろ厳しくなる必要があります。

親だからとはいえ、いつまでも親が子供の面倒を一から十まで見る必要はありません。

子供たちへ本気の教育を施し始める時期です。

目安は、10歳前後です。

10歳前後になれば、子供はある程度の分別が付き始めます。

自分で考え、判断し、自分の意思で行動できるようになるはずです。

そこで次のステップです。

家族運営に、子供も参加をさせるようにします。

「家族とはチームワーク」という実感を持たせることです。

子供たちに、食事は勝手に出るものではなく、父と母のおかげで食べていけているという理解をさせ、実感を持たせるためです。

家族の一員であることを実感させるためには、家族運営に参加をさせるのが一番です。

まずは、子供にお買い物の手伝いをさせてみましょう。

子供にお使いをさせます。

買ってほしい食材のメモだけを渡し、買ってこさせるようにします。

食材の分量まできちんと書いておきます。

そういう時間があると、いつも家で作る食事へのありがたみが湧いてきます。

なぜ父は朝早くから会社に向かうのかが理解でき、母の作る食事のありがたみがわかってきます。

食べている食材を、どこから手に入れているのかが理解でき、食事への感動が増えていきます。

家族運営に参加させることで、家族の結束が強まり、連帯感が生まれます。

お使いだけでなく、洗濯物の取り入れ、掃除の手伝い、ごみ捨てるの手伝いなどもどんどんお願いしましょう。

家族というのは「大きな船」と同じです。

全員が協力して、進めていきます。

もちろんできる範囲からで結構です。

できる範囲のことからで、こつこつやらせるようにしましょう。

子供は嫌がってもやらせるくらいでいい。

10歳にもなれば、子供でも家族の力になります。

家族を支えているという実感を持たせるのです。

子供がすくすく成長するしつけ その24

子供に、お使いを頼む。